

端野農業の移り変わり(その3)

農業発展の礎となったハッカ

屯田兵入地以来の自給自足の農業が大きく転換し、急速に発展したのは、ハッカ(薄荷)の栽培でした。

北海道におけるハッカの栽培は、明治二四(一八九二)年、永山村(現旭川市)で始まったといわれています。しかし、それよりも七年前の明治一七(一八八四)年、八雲の徳川農場で試作されたと伝えられており、のちに胆振の虻田、有珠でも試作されましたが、いずれも定着しなかったといわれています。

網走管内で初めてハッカの栽培をした人は湧別村の渡部清司氏で、道内の先進地の永山村から種根を買い受け、湧別原野植民地の貸下げを受け栽培したのが初めてといわれています。

以来、同村で他の方も栽培するようになりました。

北見地方でのハッカの栽培

北見地方でのハッカの栽培が始まったのは、

明治三四(一九〇二)年秋、野付牛屯田第一中隊兵村一区(現北見市端野町一区)の寒河江直助氏が、当時湧別村でハッカを栽培していた親戚の寒河江皇英氏から種根を買い受け、一部の種根を湧別村から背負って帰り、残りの種根は馬車二台を雇い運搬してもらい入手し、近隣の希望する方々にも分け、給与地に種根を植えました。



▲寒河江直助氏
(昭和20年代撮影)

また、同時期、第二中隊(現北見市)の屯田兵前田徳五郎氏、第三中隊(現北見市相内)の伊藤長次郎氏(屯田兵の父)も、湧別村から種根を入手し給与地に植えました。これが北見地方におけるハッカの栽培の始まりです。

国内でのハッカの主産地は当時山形県で、湧別村で栽培していた方々、寒河江、前田、伊藤の各氏はいずれも山形県出身で、県人同志の情報交換があり、かつハッカの栽培の有利さを知った上での導入であったものといわれています。

ハッカ栽培の伸長

開拓創始期の北見地方が、国内でのハッカの主産地に発展した要因として、次の六つことが挙げられます。

- ① 收穫物(ハッカ油)の運搬が極めて容易であったこと。
- ② 反(10アール)あたりの収益が他の作物の数倍にもなったこと。
- ③ 蒸し終えたハッカの茎葉は開墾や農作業に不可欠な「馬」の飼料に適していたこと。
- ④ ハッカは多年草であり地下で茎が越冬し、春先に発芽し、一度種根を植えると二年は継続して収穫ができること。
- ⑤ 農作業は、ハッカ蒸留に労働力と経費がかかるが、全体的に他の作物より労働力が少ないこと。
- ⑥ この地方に野生のハッカが自生しており、ハッカ栽培に適した環境と土地であったこと。

特にハッカは導入当時反あたりの収量が四組(約四・八キロ)ほどあり、この量はビール瓶で八本に収まり、運搬は容易であり、一駄(一〇〇組で約一二〇キロ、石油缶(一八リットル)四個を馬の背につけ販売先の網走まで容易に運ぶことができました。

また最大の要因は、農業生産の自給自足が主体で換金作物として豆類がありましたが、わずかなものでしかなく、耕地が少ない段階では一家の食糧を確保するのもやっとなりで、ハッカの収益の良さが最大の魅力でした。

当時野付牛では、大豆は反収が一石（約一五〇キロ）で四円、小麦が反収一石五斗（約二二五キロ）で四円という相場でしたが、ハッカはこの五〜六倍の価格で取引されておりましたので、まさに「金のなる草」でありました。

このようなことから、栽培が急速に広がっていききました。

北見地方のハッカ栽培が日本一に

網走支庁管内のハッカが北海道庁の統計に表れはじめたのは、湧別村で渡部精司氏が初めてハッカの種根を植えてから五年後の明治三四（一九〇二）年、紋別郡の作付面積一〇町歩（約一〇畝）が初めてでした。しかも、この面積が北海道の総面積となっていました。

その後、網走管内全体でみると、同三五（一九〇二）年に四二町歩（約四二畝）同三六（一九〇三）年八四町歩（約八四畝）同三七（一九〇四）年にほぼ千町歩（約千畝）に達し全道の作付面積一一六四畝の八五%を占め北見管内は全道におけるハッカ主産地を形成しました。また、全国的に北海道のハッカをみると、明治三八（一九〇五）年の二六%が同四三（一九一〇）年には八九%を占め、北見管内のハッカだけで見ると全国のほぼ六八%を占め、まさに日本一の産地になりました。

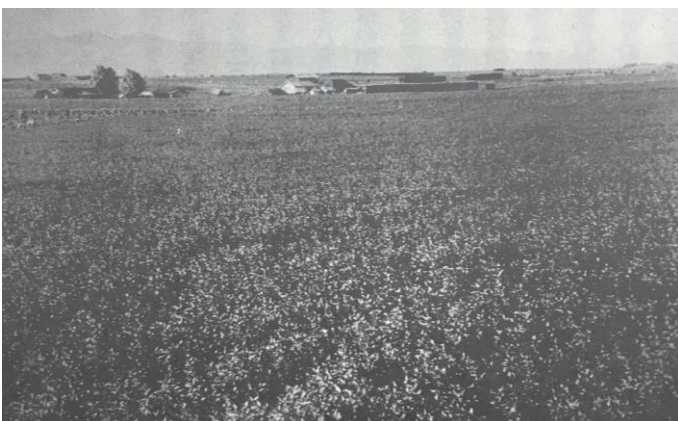
当時の網走支庁管内のハッカ作付反別は次のとおりとなっておりますので、（参照下さい）。

田中 誠

網走支庁管内ハッカ作付反別（明治34～44年）

	紋別郡		常呂郡		網走郡		斜里郡		合計		全道
	作付	収穫	作付	収穫	作付	収穫	作付	収穫	作付	収穫	作付反別
	町	貫	町	貫	町	貫	町	貫	町	貫	町
明治34	10.0	9,000	-	-	-	-	-	-	10.0	9,000	10.0
35	42.0	2,451	0.1	100	-	-	-	-	42.1	2,551	77.2
36	82.1	52,009	1.5	4,500	-	-	-	-	83.6	56,509	141.2
37	661.2	564,800	330.6	282,390	-	-	-	-	991.8	847,190	1,164.3
38	300.9	210,044	451.4	315,066	-	-	-	-	752.3	525,110	998.2
39	142.9	107,175	677.9	741,000	55.0	17,400	30.0	9,000	905.8	874,575	1,095.8
40	691.6	557,400	868.5	677,430	98.0	66,400	33.8	13,520	1,691.9	1,314,750	2,079.4
41	607.0	679,537	868.5	722,698	64.0	47,000	15.0	9,000	1,554.5	1,458,235	1,906.3
42	961.8	490,478	833.0	912,500	53.7	26,850	15.0	4,500	1,863.5	1,432,328	2,226.0
43	895.0	868,400	1,056.5	1,336,800	57.2	85,600	22.0	22,000	2,030.7	2,312,800	2,690.1
44	1,261.7	1,252,600	1,324.2	1,283,120	58.1	81,070	28.0	28,000	2,672.0	2,644,790	不明

（「殖民公報」第64号より）



▲畑を埋めつくしたハッカ



▲病虫害防除（戦後撮影）